

● 大分県由布市（10月27日）

【人口】 36,579人 【面積】 319.16k㎡ 【一般会計総額】 150億円

◆ 調査事項「議会報告会について」

・ 由布市議会の取り組み概要（平成21年度まで）

「開かれた由布市議会への改革」の一環として、平成20年2月15日に開催された全員協議会で、議員の総意によって「議会報告会を」市内3ヶ所で開催することを決定。大分県内で初めての議会報告会を、平成20年度中に2度開催。

- ・ 実施回数：2回 第1回 平成20年5月 時間 午後7時
第2回 平成21年2月

- ・ 実施場所：市内3ヶ所 挟間会場、湯布院会場、庄内会場（合併前の町単位）

- ・ 実施主体：議員全員を3班に分け、3ヶ所の会場をそれぞれ担当。

事務局は、受付・資料作成程度で、議員が主体的に行った。

- ・ テーマ 第1回：「由布市議会と議会のしくみ」「20年度予算・決算状況について」「由布市の重点施策と事業について」「20年第1回定例会の質疑及び一般質問の状況」「常任委員会・特別委員会の活動について」「議員報酬・議会改革の取り組みについて」

第2回：第1部「由布市議会と議会のしくみ」「まちづくり予算・決算状況について」「行政システムと庁舎の現状について」

第2部「ふれあいトーク」

- ・ 実績：第1回 参加者275名 第2回 参加者190名

・ 実施後の検証

（評価される点）

- ・ 議会報告会を開催したことに対し、市民から高い評価を得られた。
- ・ 議員総意により一致団結して積極的に取り組みができた。
- ・ 市民から議員の活動等に対して、一定の理解を得られた。 など

（反省すべき点）

- ・ 参加者から議員個人の意見を求められた時の対応。
- ・ 会場案内の看板不足。市民への開催広報の周知不足。
- ・ 議会が一方的に内容を決めていた。内容について市民の意見を聞く必要。
- ・ 旧町単位で実施したが、今後は、自治区、職場単位等の検討が必要。 など

・ 由布市議会の取り組み概要（平成21年度（改選後）～）

- ・ 対象：自治会、団体、グループ。概ね10人以上。
- ・ 内容：議会のしくみなど。対象者が希望するテーマ。
- ・ 実施回数：平成22年 3回 ・女性団体・湯布院観光協会・自治区

・ 委員の感想

○報告会実施の評価は高いが、2回目の報告会は参加者が減少していた。減少の理由は、①報告会の内容が、行政報告等と同じである。②内容が、市民の感心ごとでない。

また、報告会全般の問題点としては、①陳情や要望の会となってしまう。②開催時間。③参加者の年齢構成に偏りがある。④PR方法等。いずれにしても、報告会を実施したことは、市民の

皆さまから高い評価を得ており、市民と議会・議員の距離が近づいていると感じられた。

○広報委員会を特別委員会として活動されており、広報紙も議員がほとんど編集されていて、議会広報らしい広報紙になっている。一般質問も自ら整理しておられるし、委員長報告に対する質疑も活発であり、さすが、大分県で初の議会報告会を開催された議会であると感じた。我が議会も大いに学ぶべきだと感じた。

○平成 17 年の 3 町による合併で市制が施行されているので、今、まさに「まちづくり」のスタートである事を感じた。3 つに分散している庁舎の在り方、各町出身の議員の意識改革も当分かかるとその大変さを感じた。だからこそ「議会報告会」を一早く行動に移された事に感心した。

○3 町が合併し、新しい由布市議会の取り組みとして「議会報告会」が取り組まれていた。湯布院町、挟間町、庄内町とそれぞれ 3 会場で開催され、いずれも出席者数は、120 名、80 名、75 名と住民の関心の高さが示される数値であった。

本市でも、まずは実践し、議会が「見える化」されれば、住民にとって信頼されるかけ橋となるものと考えてる。



○「開かれた由布市議会への改革」の一環として、平成 20 年 2 月の全員協議会で議員の総意により、市内 3 ヶ所で開催することを決定。本年度からは、各団体へ出向くという積極的な姿勢を本市も見習っていかねばと思う。

「やることに踏ん切りをつける」そこに到達するまでの過程を討議しながら、開かれた東広島市議会を目指していきたい。

○由布市議会では、議会改革の取り組みとして市内 3 会場で平成 20 年度より議会報告会を開催しており、議会のしくみや役割、予算、決算状況など説明し、その後、市民の質疑・意見交換し、2 時間程度で報告会を終了している。最初は、市民も関心があり多くの参加者があったが、年々参加者も減少し、一部の市民の苦情を聞く会となり、これからが大変だと言われていたのが印象的であった。